

19/6/3 河村たかし名古屋市長定例記者会見 名古屋城部分

(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

【市長】はい、それでは、次は名古屋城の天守閣解体に関する現状変更許可申請についてご報告をさせていただきます。正確を要しますので、若干丁寧に読まさせていただきます。文書で配るのはどうかねといったらちょっと文書で配るのは待ってあげて頂戴ということでございますので、口で申し上げます。

これまで解体の現状変更許可申請の状況について文化審議会に諮られたかどうかも含めてお答えすることはできないとお話させていただきましたけども、先般文化庁より天守閣解体の現状変更許可申請書が5月17日の文化審議会に諮問されその後、専門調査会に諮られたということが、担当者を通じて伝えられました。

併せてその際に現状変更許可申請について確認すべき件が生じたということで、回答を求められておりますので、現在事務方において、確認事項を精査し精力的に回答の作成に着手しております。なお、確認すべき点については石垣等遺構への影響に関するものについてですが、内容を公表することにより今後の文化審議会による公正な審議を妨げることになるため、お話しすることは差し控えさせていただきます。ただ名古屋市としてはやるべきことはやった上で現状変更許可申請を提出してまいりました。

引き続きできる限り早期に回答を作成した上で文化庁へ提出し、グッドニュースを待ちたいと考えております。

ということでございます。

まあこういうことでございます。それ以上はちょっと申し上げられないでいかんのですけれども。

昨日、陛下もお見えになりました。

木の利用ということをお言葉の中で言うておられましたが、

まあつくづくやっぱり名古屋のお城を木造復元していくということの意義を深く、わしもおりましたけれど感じましたね。木の文化というのは、これは何遍も言うておりますけど、西洋の文化とちょうど報道されるのだったらぜひ、ノートルダムのキャシードラル、ノートルダム寺院のあの木の部分は焼け落ちたということと名古屋城と比べられたらいいですよ。

ノートルダムの場合は木の部分は焼け落ちました、しかし外見は残ってますよ。ちゃんと。

名古屋城は木の文化という全部なくなる。ナッシング、木というのは。

となるとですね、歴史的な遺産というのは消滅するのその時点ですかというような問題に若干なるんですね。

文化庁は奈良ドキュメントというか、やっぱり日本型の木の文化というのを強く主張して

おりまして、ただし条件が付いたりまして、国宝とか重要文化財とかいう重要な建物でも
のであったものがなくなったこと。ただ、二つ目はその無くなった真上に造ること。

それから梁とか柱とか、そういう構造を保ちながら再建といえるものを造るということ。

そうであった場合はそれはしょうがないですよ木の文化というのは。

伊勢神宮の式年造替がそうですね。20年毎に全部造りかえます。

木というのは石と違ってやっぱり命がありますので、かといって法隆寺は1300年。

ものの本によりますと1300年、いったんその前にどうも燃えとるようですけど、いずれに
しても1300年間、今の木の65%がその当時の檜だというような書いたりしましたけど。

日本の木の文化というのは一端、確かになくなる。これは。だけどそれを復元ということ、
まあ、伊勢神宮では常若といいますけど常時に若いと書きますけど。

常にそういう作業によってずっと昔のものを引き継いでいくというのが日本の考え方です
ね、これ。

だで、亡くなる人間の命は70年から80年で平均的に亡くなりますけど全員ほぼ。

だけどやっぱり何か生き続ける、やっぱり。それで消滅するわけじゃないんですよ。

そういうことを大事にしていこうというのが日本の考え方じゃないですかね、ですからそ
のシンボルとして名古屋城、天守は全くそのシンボルとして世界に主張できる素晴らしい
ことになると思いますよ。400年前に家康が造って、その後宝暦の大改修ってありますけど
ね、宝暦年間、そんだけそれが333年間大事にしとったものがなんと空襲というもので
消滅してしまった。国宝1号であった。

1号だったんですから名古屋城が。姫路城は1号でない、あんまりいうと姫路の市長が怒
ってくるからいかんけど歴史的事実で2号だったんですけど。ええ。

そういうものがなんと人間の所作、戦争という本当にまあ狂った話ですけど人類というの
は悲しみに満ちてますので。

だいたい5千年、6千年と言いますが、悲劇に満ちてますがね。最大の悲劇であるたぶん
戦争というものによってなくなってしまった。無くなったんですよ一端、ほんとに。

櫓で残っておるのありますけれども、天守がなくなりました。

完全になくなった。英語でいうとデスアピアー消滅して消えたと。

いうことを今の人類の英知の中でたまたま凶面があるという。

先人に感謝せんといかんですけどね、これ。名工大の当時の名工大の学長さんがものすご
い熱心だった事実、文化庁と名工大の学長さんと名古屋市の職員で残していつてくれたと
いうことにより、常若とまた蘇るんですよそこで生命は。

これはそういう気持ちで見ないといかんですよ、これ。本当に。本物は蘇るんです。

コピーとかレプリカじゃないんです、オリジナルなんです。

いう気持ちを世界にアピールする空前のチャンスだと思いますね、これは。

名古屋という街はだから“シティー・オブ・ドリームズ”とか“シティー・オブ・フレッシ
ュスタート”とか言っておりますがね。

名古屋ちゅうのは夢の街とか、もう1回やり直せる街だとか。

人生なかなかね、昔はね、なんだった渚ゆう子かなんか恋に破れた女が京都を歩くというのがありましたけど、あんまり関係ないですかねこれは、まあ知らんけど。人生いろんな辛いことでありますけど今の信長の人生大逆転街道もそうだけど、名古屋城見ていただいて、蘇るんだなこれ、生命っていうのは、ということを感じていただければ
そういう日本の文化を世界にアピールする空前のチャンスで出来事になると思います。
今のご報告いたしましたように文化庁にもここまでは答えていただきましたもので、大いに期待を持ってね。

名古屋のためになりますけれども日本のため、世界のためですね。いろんなことがあってもよ、まあ、そう諦めずに一口でいうのも簡単でないけどもう一回戦いを続けると、またええこと来ますよという人間は。特に子供さんたちに訴えたいですね。特に最近の不幸が続きますんで。

まあそういうことでございます。

以上でございます。

【記者】中日新聞の垣見ですけれども、先ほど名古屋城の解体の申請の関係ですけれども、先日文化審議会に諮問されたかどうかも含めてちょっと言えないという話だったんですけども今回これを公表したのはどういう経緯でしょうか。

【市長】まあ模範解答もありますけどいろいろ問い合わせ等もあって、できるところまでは公開していこう。そういうお気持ちだったと思いますけど。

【記者】これも文化庁自身も名古屋市に対して、諮られたと公表しても構いませんと。

【市長】今の文書で丁寧に読みましたけれど、この限りにおいてお願いします。文化庁からの話、はい。

【記者】何時頃それは連絡があったのですか。

【市長】いつ頃だったっけな。29日、書いてあったっけ。Q&Aにあったかな
5月27日に文化財保護室あてに連絡あり、それをうけて5月29日に文化庁に出向き、直接伝えられたと担当より聞きました。

【記者】そのときの文化庁側の理由ってのは何かあったのですか。

【市長】理由ってこれは書いてありませんけど、先ほどいった話でいろいろ問い合わせもありと、やっぱり役所としても一定の公開できるところまでは公開していこうという気持ち

だと思います。

(こんでええか、こんでええの。ほんで大丈夫。)

【記者】では期限は切られてるんでしょうか。回答の。

【市長】期限は、速やかにだったかな。

速やかに。(できるだけできるだけ早く) できるだけはやく。

アズ・スーン・アズ・ポッシブル

【記者】その経緯については模範解答にはなんと書いてあるですか。

【市長】えりゃ経緯はだから、経緯はあの一、経緯は書いてないですね。

【記者】公表した理由は。

【市長】公表した理由は書いてないですね。

【記者】先、おっしゃった模範解答は

【市長】あれはわしの推測というか、そういうことではないのかと。

ありがたいことです。一定のやっぱりまあ範囲はありますけれども、そんなかで公開をしていこう。名古屋市民の期待もありますんで、そういうこともあったじゃないですか。やっぱりええ。市民のみなさんから募金も結構集まったりしますんで。組織的にやらんとしても。

【記者】すいません、文化庁の説明の中では今後の流れで専門調査会にかけられて、その後どうなるかみたいな話については聞かれましたか。

【市長】それについてはまあ、なんですか一切お答えはちょっと控えさせてもらうという状況でございます。

【記者】聞かれたけどここではお話できないということですか。

【市長】ん。

【記者】市長自身、名古屋市としては把握されているけど聞いているけどここではお伝え

できない。

【市長】 いやいや中々微妙なところですけど、一応今後はその確認事項ですか、をだしていただいと、それからちょっとお答えできないということです（そういうことだろう）そういうことです。

【記者】 確認なんですけど、確認事項がありますよっていうのを伝えられてももう 5 月もすぎたということで

【市長】 そういうこと。そういうことです。

【記者】 回答に結構時間がかかりそうな、すごい難しいことですか。

【市長】 誠実にやらないかんですけどとにかくベストを尽くしてまいりまして何遍も言っ取りますけど、今までいろんな石垣天守のいろんな文化財のこういうのがありましたけど、僕が聞いたところでは、まあ言ってもいいと思いますが穴太衆といって織田信長以来、石垣を積むいわゆる職人の集団がある、ここだけじゃないですか本当にやっとするのは。なあ、言っていましたけど。

名古屋ほど丁寧にやっただこないですよと言ってもいいかといったらいいですよ。これは、素晴らしいことをやってこられたということです。

天守、上の天守コンクリート部分を外せば、そりゃ当然石垣も丁寧に調査もできますしね。それを文化庁に伝えてもいいかと聞いたらいいですよというそういう状況ですから。

【記者】 今回の回答されるにあたっては石垣部会を開かれる予定はあるんですか。

【市長】 それはどうですか。今のところないんでしょ、今んところないんでしょ

【記者】 文化庁としては明確に回答をするということを言われてるんですか、例えば許可をするとかしないとか、条件付きであるとか。

【市長】 それはまあ、そこまでもお答えできないということになっておりますけど。それはやっぱり名古屋市民とすれば、グッドニュースを本当に心待ちに皆待っておりますわね。ものすごい市民の数。まだ増えていると私は思いますよ。こういう仕事ですからあっちゃこっちゃ喋ったり、この間統一選挙ありました。いろんなところでいろんな話してきましたけど。木造化を期待する市民、名古屋市民の数ほどえりゃ増えとると思いますね、これ。

地域懇なんかしておりますして隣に爺様なんかきて、「河村さん木造ちゃんとやってちょうよ」ていって。

そういう感じ。ついこの土曜日もありました。

【記者】ちょっと確認なんですけどもし解体の許可が得られた場合には、復元の許可が得られていない段階であっても予定通り、この秋ぐらいから解体を始めたいという意向でよろしかったですね。

【市長】そりゃそうでいいだろう、丁寧に後の作業もいろいろやりますよけどね。

【記者】これも確認なんですけど、あくまでも今回はその解体に関する許可じゃなくて、その後の復元というものは完全に切り離されて、それとも復元についても、ある程度話をするということなんですか。

【市長】形式的には分離されていますね。これはしかし、まあ何のために解体するのかということになりますわね、そもそも、ということもありますんで、丁寧にお話をさせ出してください。石垣のためにも、日本で一番いいモデルが名古屋城モデルってできるんじゃないですかこれ。

思いますけど私は。思いますけど間違いないと聞いた。

繰り返しますが初めての人が居るで、何でもかといひますと、まあええか、技術提案・交渉方式っていって、一遍グーグルで出してやって頂戴。6年ぐらい前に、公共工事の発注においてで発注側が市営住宅とか橋みたいにこれを造ってくれて確定できない場合があるんですよ

どうことかという、石垣でもほんとにどういう圧力がどっからどう加われれば石垣がどう崩れるとか、石一つが、どういう圧力で加われればそれは崩れるかどうか分からないんですよ実際は。全然分からん事はないんですよ、相当わかりますけどね。

それから石の中に中込め石あれも江戸時代の初めから入ったかどうか、完全な写真とかもありませんのでこれ、だからそういう場合は、それから天守そのものも昭和実測図があるけれど、裏側は実はないんです。

裏側は金城温古録等によって考えていくわけです。

だけど、素晴らしい材料が残っておんです。そういう場合はどうやったらいいかという。その技術提案を初めの時から募集してこういうのでやりましょ、そこでコンペをしてそれでやって、それでやって、技術提案・交渉方式でやってもええかという審査会もある実は。これは、国土交通省の指導をうけてその通りやってきた、ここではっきり名前を言うと、セントレアに今行っておられる八鍬さん。方が当時の中部地整の局長だった。そこで相談してから八鍬さんいれてその時の去年ですからもう5、6年なるかな。全党一致

で即日施行された法律がありますと、品確法改正だったかな。今言ったように技術提案・交渉方式がありますんで、まさに相応しいんじゃないんですかいて。

文化財、文化庁も当然いいですよとその代わり丁寧に説明してくださいねということで始まっていった。わし覚えとるけど何年か前3年か前に当時の。

【記者】市長、すいませんたぶん時間が結構ない

【市長】あ、素晴らしいとってましたけど。

【記者】あの、東京オリンピックの聖火リレーが順調にいくと来年4月6日に名古屋城にくると思うんですけど、これはがもし申請許可されて、解体始めちゃったら、聖火リレーできた時に城ないという状態ですか。

【市長】まあ、しかし本物はできるんだで、本物が出来るんということですから普通の解体でないよこれ。

【記者】秋ごろ始めるといつ解体が終わるんですか。

【市長】1年、どのくらいだった。スケジュール。(2020年8月末)20年8月末ですね。

【記者】4月だとどういう状況が予想されますか。

【市長】4月だとなんだ。(外部エレベーターが解体が終わっているくらいです)

【記者】建物はきっちりまだ残ってるんじゃないかな。
(建物は足場で覆われている可能性があるんですよ。)

【市長】私も旭丘高校の解体に絶対反対しましたけど。
文化庁珍しいですけど登録有形文化財なるという文書をいただきましたけど、あれは本当に壊してしまう建物ですけど、名古屋城の場合は本物に戻るとのことだね、これ。言っときますが、復元というやつだから。違うんですよ。これ。

【記者】市長すみません。市長、市当局の中で今回の現状変更許可が通常通りあがって、通常のルートなら専門審議会が即回答が得られず確認事項等、問い合わせを経て決まるといったケースがこの前あったんですか。

【市長】ん。それは聞いておりませんが。私。

【記者】ご担当者、把握していませんか。

【市長】そんなことありますか。（他の事例までは把握できておりません）

【市長】ほかの事例まで知りませんがグッドニュース必ずいただけると。こんだけ丁寧にやっただもんで。名古屋市民の夢は叶うと。思いますよ私は。信じておりますよ。

【記者】市長、ないし名古屋市の心積もりとしてはだいたいどれぐらいで許可する、しなやかな話の降りと考えると考えられていますか。そもそも秋ってというのが一つの目安ではあると思うのですがそれまでにはくる。

【市長】そんな遅いはいかん、だから近いうちに、近いうちにえられると思いますけど。

【記者】それは今月中とか、来月中。

【市長】それもまあ答えんでくれと言われておりますんで。まあ、しかるべき時にやっってくれると思いますけど。

【記者】答えんでくれと言われているということは市当局の今後のスケジュールは伝わったように、どういうときに判断を文化庁が名古屋市に伝えるか。

【市長】それも中々答えにくいな。

【記者】植樹祭で陛下に会われたということですけど、名古屋城の話はされたんですか。

【市長】ええ、あんまりプライベートなことは言わんほうがええかなあ。どうのこうのなっちゃってよ。公的なところではしておりませんが。全部が公務ですけど、いわゆるいわゆる公的なところではしておりませんが。

【記者】基本的なことでは申し訳ないのですが文化審議会に諮ることと専門調査委員会に諮ることとは何が違うんですか。

【市長】うん？

【記者】文化審議会に諮ることと専門調査委員会に諮ることとは何が違うんですか。

【市長】文化審議会が全体会議でしょ。言ってみれば、その中の専門調査委員会で分科会がある。

(具体的なところ、文化審議会にかけて具体的なところはその下部の第三専門調査委員会というところで具体的な審議をするということでございます)

【記者】委員とかも全部ちがうんですか。

(具体的なところは私どもで把握しておりません)